

# 人助け 光るアイデア

全国高専プログラミング競技 弓削商船(上島) 2位・3位に



全国高等専門学校プログラミング  
コンテストで、優秀賞や特別賞を  
受賞した弓削商船の学生

## 安否確認など システム開発 半年奮闘 実用化意欲

岩手県一関市で18、19両日にあった全国高等専門学校プログラミングコンテストで、弓削商船高等専門学校(上島町弓削下弓削)の3チームが2位の優秀賞と3位の特別賞に輝いた。大規模災害時の人命救助や子どもの安否確認などに役立つ技術で、学生は実用化に意欲を燃やす。

3部門に全国の高専171チームが応募し、本選には計110チームが出場。課題部門は「防災・減災対策と復興支援」がテーマで弓削商船の「光陰如箭(こういんじよせん)」が優秀賞、「i-Badge OVERしまNET」が特別賞を受賞した。

「光陰」は災害で電話やメールが利用できないとき、スマートフォンを使いモジュールで情報伝達するシステム。入力文章を信号に変換してスマホのライトで発信、内蔵カメラで相手の信号を解読する機能も備える。情報工学科4年瀬尾敦生君(18)は「助け合えるシステムを作った。調整を加えて一般に配りたい」と話す。

「i-Badge」は、小さなコミュニケーションでネットワークを構築し、衛星利用測位システム内蔵のバッジを持った子どもの位置を把握する。既存システムより利用料が安く、独自ネットワークを使うため災害で情報基盤が途絶しても利用できるという。高齢者などへの応用も可能で、情報工学科5年岡野さくらさん(19)は「バッジを小型化し、上島町に導入を働き掛けたい」と意気込む。自由部門で特別賞を獲得した「Code on the Tablet」は、教育現場で普及が進むタブレット端末を使い、プログラミングの学習や開発ができるアプリ。入力しやすいよう画面上のキー配列を工夫し、教員の問題作成を支援する仕組みも設けた。情報工学科5年山本隆弘君(19)は「身近なタブレットを通してプログラミングに触れる人が増え、技術者不足の解消につながれば」と願う。弓削商船の長尾和彦教授は「約半年間頑張った」と学生をたたえた。

(高橋正剛) 各ソフトを作ったほかのメンバーは次の皆さん。  
【光陰】宇崎裕太、肥田琢弥、山本愛奈(i-Badge) 松垣俊希、亀島加奈恵、福羅弗利沙、村上麻矢加【Code】古谷勇樹、林真史、井上香澄、松川瑞樹